

新NISAが始まりました!



今回は、超初心者向けに新NISAのポイントをざっくりですが、わかりやすく解説いたします。

目次

- 1. NISA 制度のおさらい 図1
- 2. 旧NISAから新NISAの概要 図2
- 3. 新NISAのここが凄い!
- 4. 積立投資の仕組みと効果について 図3
- 5. 複利効果と非課税の無制限化について 図4・5

1 NISA 制度のおさらいです。そもそもNISA 制度とはどういうものなの?

図1 運用収益に対する課税



小額投資非課税制度のことで投資利益に税金がかからないとてもお得な制度で、これから投資を始める方にお勧めです! 商品ではなく口座です。



2 旧NISAから新NISAの概要

図2

旧NISAの概要

| | つみたてNISA 2018年創設 選択制 | 一般NISA 2014年創設 | ジュニアNISA 2016年創設 |
|---------|----------------------------|-------------------|---------------------|
| 年間投資枠 | 40万円 | 120万円 | 80万円 |
| 非課税保有期間 | 20年間 | 5年間 | 5年間 ^{*1} |
| 口座開設期間 | 2023年まで | 2023年まで | 2023年まで |
| 投資対象商品 | 金融庁の基準を満たした投資信託に限定 | 上場株式・投資信託等 | 上場株式・投資信託等 |

*1 ただし18歳まで非課税で保有可能とする特例あり

新NISAの概要

| | つみたて投資枠 | 成長投資枠 |
|--------------|--------------------|----------------------|
| 年間投資枠 | 120万円 | 240万円 |
| 非課税保有期間 | 無期限化 | 無期限化 |
| 非課税保有限度額(総枠) | 1,800万円 | |
| 口座開設期間 | 恒久化 | 恒久化 |
| 投資対象商品 | 金融庁の基準を満たした投資信託に限定 | 上場株式・投資信託等(一部の商品を除く) |

3 新NISAのここが凄い!

1. 非課税保有期間が無期限化されました!
2. 旧NISAでのつみたては、年間投資枠が小さく、月3.3万円しか積立できませんでしたが、今後は最大月10万円になります。さらに、成長投資枠(従来の一般NISA)との併用が可能になったことで、成長投資枠で月20万円、合計で最大月30万円の積み立てが可能です。
3. 余裕資金が手元にある場合は、一生涯で投資できる上限が1,800万円となったことで、360万円(毎月30万円)×5年=1,800万円を最速で投資して、あとは放置して運用することもできます。
4. 生涯投資枠は売却すれば新たに投資が可能になります。

以上、まとまった資金のある方は、新NISA口座を活用して資産形成を加速させることもできます。

また、投資における複利^(*)効果は少額でも長く続けることで効いてきます。

*複利とは、最初の元手とそれまでの利息を合わせた金額に利息が付く。*対して単利とは、最初の元手にだけ利息が付く。

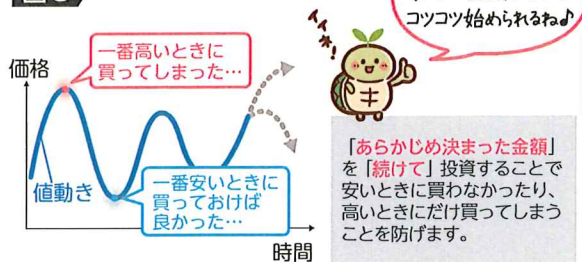
ただし、投資にはリスク(価格変動)が伴います。資金に余裕のない場合は、まずは生活防衛資金や数年後に必ず必要になる資金を現金で確保することが大事です。



4 積立投資の仕組みと効果について

積立投資は、価格が変動する商品(投資信託など)を定期的に同じ額で買い続けるドルコスト平均法などで積み立てるため、価格が低い時には購入量が多く、価格が高い時には購入量が少なくなり、平均購入単価を抑えることが期待できます。

図3



例えば、合計4万円分、投資信託を購入する場合

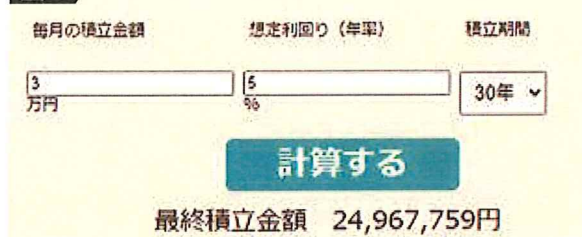
| 投資信託の基準価額の推移(1万円あたり) | 1か月 | 2か月 | 3か月 | 4か月 | |
|----------------------|-----|-----|-----|-----|--|
| 1万円 | | 2万円 | | | この例では、毎月1万円ずつ購入していた場合の方が、平均購入単価を安くすることができます。 |
| 4万円 | | | 5万円 | 1万円 | |
| 最初に4万円分購入した場合 | 4万円 | | | | 購入総額 4万円 平均購入単価 (1万円あたり) 1万円 購入口数 4万口 |
| 毎月1万円ずつ購入した場合 | 1万円 | 1万円 | 1万円 | 1万円 | 購入総額 4万円 平均購入単価 (1万円あたり) 約9千円 購入口数 4.5万口 |

基準価額が高いときは少なく購入 基準価額が低いときは多く購入

5 複利効果ってどういうものなの? 非課税期間無制限化ってそんなに凄いの?

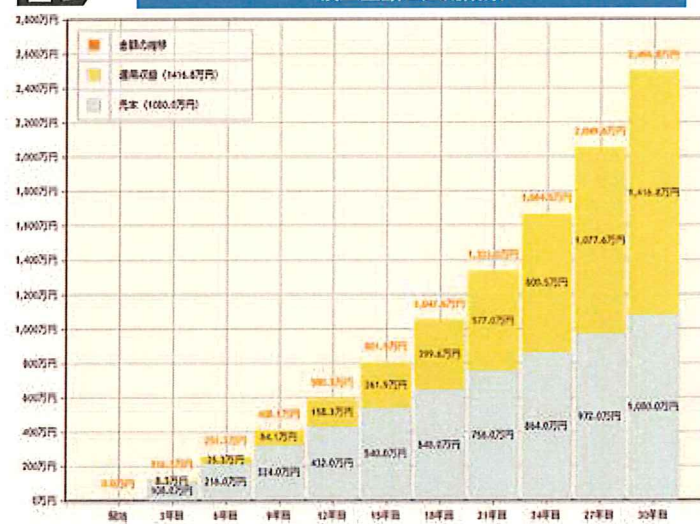
複利については、あのアインシュタインが「人類最大の発明」と言った話は有名です。では、具体的に複利効果(長期投資の効果)をシミュレーションで見てみましょう。毎月3万円をつみたて投資で30年間運用したとします。(想定利回り5%)

図4



年5%の収益で運用できたと仮定した場合、9年間の投資期間で貯めることができるのは408万円。しかし投資期間を30年とすると約2,500万円になります。うち、運用収益が約1,416万円です。この運用収益である1,416万円に約20%の税率がかかると、約283万円が税金として引かれてしまいます。NISA口座で運用すると、この283万円がまるまる運営収益として手元に残ります!

図5 積立金額と運用成果



Q & A

年5%の運用収益って、そもそも可能なの?



もちろん投資はリスク(価格変動)が伴います。長期で右肩上がりが続いていても、短期間では上がったりが下がりたりを繰り返しています。過去30年の平均で全世界株式は年プラス7.6%、米国株は年プラス9.8%です。複利は運用期間の長さによって期待できるので、早く始めた人ほど効果が期待できます。

投資をする余裕がない人はどうすればいいの?



最初は少額でも余裕が出てきた際に積立額を増やすこともできます。投資を始めると貯金や節約の意欲も出てきます。まずは生活防衛資金を確保したうえで、少額(月5,000円など)から始めることもできます。

詳しくは、金融庁などのHPでご確認ください。

金融庁 NISA 特設ウェブサイトはこちら



投資は自己責任です。メリット・デメリットをしっかりと理解して、まずはつみたてNISAから始めてみてはいかがでしょうか。

